

教科名	理科	学 年	3	週時間数	4
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス3」（啓林館）				
副教材等	グラフィック「理科資料集」（新学社） 「理科の完全学習」（正進社）				

教科の目標	○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができる。 ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことができる。 ○自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うことができる。		
授業の進め方	○身近な自然現象を日常生活や社会と関連付けながら理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けます。 ○グループでの対話を取り入れ、思考したことを交流しあいながら学習します。 ○課題の設定、仮設の設定、実験方法の立案、観察・実験、結果の処理、考察・推論の過程を繰り返す、科学的に探究する活動を行います。 ○教科書を中心に授業を進め、グループ学習を取り入れて知識の定着と理解を深めていきます。 ○定期テスト以外にも単元テストを行います。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つ け たい 力	○科学的な事物・現象から問題を見いだしている。 ○見通しをもって観察、実験などを行って、得られた結果を分析して、解釈・表現し、科学的に探究している。	○科学的な事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	方 法	・定期テストや実技テスト、単元テスト ・観察実験レポートの内容 ・観察実験の様子 ・授業での発言内容等	・授業プリントや振り返りシートの内容 ・観察実験レポートの内容 ・観察実験への取り組み方 ・授業での発言内容 ・定期テストや単元テスト
	学 習 の ポ イ ン ト	○授業の中で出てきた重要語句で、理解できなかった部分は、教科書や便覧を活用しながら、知識として定着できるようにしよう ○目的や意図を考えながら、観察実験を行おう。	○授業の内容だけでとどまることなく、「もっと知りたい」「なぜ？」を大事にし、自ら調べて知識を増やしていこう。 ○仲間の考えを尊重しあい、仲間の意見と自分の意見を比較して、科学的な見方や考え方を高めよう。
	家 庭	○普段からテレビなどで放送される科学的な事象についてのニュースなどに目を向けて、授業で学習した科学的概念とのつながりを意識しよう。 ○教科書やワークシートをしっかりと見返して、学習した内容の理解と定着を図ろう。 ○授業で習った部分のワークを日々進めていくことで、理解を深めよう。 ○入試問題等の過去問にチャレンジしよう。	
定期テスト範囲	1 学期中間(5月下旬頃)	・大気の動きと日本の四季 ・生物のふえ方と成長 ・遺伝の規則性と遺伝子	
	1 学期期末(6月下旬頃)	・生物の種類の多様性と進化 ・水溶液とイオン	
	2 学期中間(9月下旬頃)	・電池とイオン ・酸・アルカリと塩	
	2 学期期末(11月下旬頃)	・力の合成と分解 ・物体の運動 ・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり ・エネルギー資源とその利用	
	学 年 末(2月下旬頃)	・地球から宇宙へ ・太陽と恒星の動き ・月と金星の動きと見え方	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	生命の連続性	- 生物のふえ方には、無性生殖と有性生殖の2つがあることを見だし、有性生殖における減数分裂について理解する。 - 染色体にある遺伝子で形質が伝わること、そしてその伝わり方に規則性があることを理解する。 - 現存の多様な生物は、過去の生物が進化したものであることを理解する。また、進化の概念を身につける。	- 生物のふえ方 - 細胞のふえ方 - 親から子への特徴の伝わり方 - 遺伝のしくみ - 遺伝子の本体 - 生物の共通性と多様性 - 進化の証拠 - 生物の移り変わりと進化
	5			
	6	化学変化とイオン	- 電解質を理解し、電気分解の実験からイオンの存在を見ださせ、イオンの生成が原子に関係することを理解する。 - 金属のイオンへのなりやすさを理解し、電池のしくみを説明できるようにする。	- 電解質、非電解質 - 電解質の水溶液に電流が流れたときの変化 - 電気を帯びた粒子の正体 - 金属のイオン - 電池のしくみと日常生活
	7			
2	9	運動とエネルギー	- 酸やアルカリの性質がイオンによることを見だし、電離の説明ができるようにする。また、酸とアルカリが反応すると塩と水ができることを見だし、中和反応を説明できるようにする。 - 重力と浮力のつり合いの関係からしくみを理解し、合力を求めることができる。 - 物体の速さや運動を調べる方法を身につけ、力と運動の関係を理解する。 - 仕事の定義を理解し仕事の原理を見だし力学的エネルギーの保存を理解する。 - エネルギーの移り変わりを理解し、総量が一定に保たれることを理解する。 - エネルギー資源を確保し安全で有効な利用と環境保全をはかることを認識する。	- 酸性やアルカリ性の性質 - 酸性・アルカリ性の強さ - 酸とアルカリを混ぜたときの変化 - イオンで考える中和 - 水中の物体にはたらく力 - 力の合成 ・力の分解 - 運動の表し方と運動 - 物体間での力 - 仕事・エネルギー - 力学的エネルギー - エネルギーの種類 - エネルギーの変換と保存 - 生活を支えるエネルギー - 利用上の課題と有効利用
	10			
	11			
	12	宇宙を観る	- 惑星と恒星の特徴や太陽系の構造を理解し、太陽の観察の技能を身につける。 - 日周運動が自転によること、地球の公転と地軸の傾きとも理解する。 - 月や金星の見え方を月や金星の公転と関連づけて理解する。	- 地球、月、太陽 - 太陽系・宇宙の広がり - 太陽の動き - 星座の星の動き - 月の動きと見え方 - 金星の動きと見え方
3	1	自然と人間	- 植物と動物、微生物がつり合いを保って生活していることを見だし理解する。 - 日常生活や社会で、物質の再利用などが大切であることに気づく。 - 科学技術の発展・利用が生活を豊かで便利にしていることを認識し、検討する。 - 人間が自然環境に影響を与えていることを理解し、自然環境の保全を考える。 - 持続可能な社会の重要性を認識する。	- 生物どうしのつながり - 生物の数量的関係 - 分解者 ・物質の循環 - 天然の物質と人工の物質 - プラスチック - 科学技術の発展の歴史 - 科学技術の利用と暮らし - 身近な自然環境と影響 - 人間の活動と自然環境 - 科学技術の発展と課題 - これからの社会を担う
	2			
	3			

教科名	音楽	学 年	3	週時間数	1
使用教科書	「中学生の音楽2・3下」(教育芸術社)				
副教材等	「音楽のハーモニー」(正進社) コーラスフェスティバル				

教科の目標		○楽曲の美しさを感じ取りながら音楽の構造や背景との関わりを捉えて理解し、表現や鑑賞に生かすことができる。 ○音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、どのように音楽表現するかについて知識や技能を生かしながら、思いや意図をもつことができる。 ○様々な体験を通して音楽に対する興味・関心を養い、生活をより明るく豊かにする態度を身につけることができる。		
授業の進め方		○多様な音楽に興味・関心をもてるよう、幅広いジャンルの曲を扱います。 ○グループ活動を取り入れ、みんなで助け合い、工夫し合いながら学びを深めます。 ○年間を通して歌唱・鑑賞・器楽・創作の授業を行います。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つけた力	○曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ○創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けている。	○曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。 ○音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。	○主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験している。 ○音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養っている。
	方法	・定期テスト ・実技テスト ・各活動への取り組み方 ・副教材、ワークシートの内容	・各活動への取り組み方 ・副教材、ワークシートの内容 ・実技テスト	・各活動への取り組み方 ・言動の意欲 ・副教材、ワークシートの内容
学習のポイント	授業	○普段から話をしっかり聴き、音楽の記号や用語を覚えて表現に生かそう。 ○それぞれの曲の時代背景や音楽の仕組みを覚えよう。	○歌唱や器楽では、曲にあった表現を工夫しながら堂々と演奏できるようにしよう。 ○音楽を心で聴き、よさや美しさを感じ取れるよう常に意識しよう。	○どの分野にも意欲的に取り組もう。 ○仲間の考えを尊重し合い、お互いの音楽性を高め、全員で協力して進めよう。
	家庭	○普段からテレビなどで流れているクラシック、ポップスや伝統音楽など、様々な音楽を聴くことを心がけ、授業で学習する曲とのつながりを見つけて学びを深めよう。 ○実技は、頭の理解だけでは難しいので、時間や場所を考えて練習しよう。		
定期テスト範囲		1学期中間(5月下旬頃)		
		1学期期末(6月下旬頃)	1学期で学習した内容	
		2学期中間(9月下旬頃)		
		2学期期末(11月下旬頃)	2学期で学習した内容	
		学 年 末(1月中旬頃)	1年間で学習した内容	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	・ 歌声づくり	・ 堂々と歌う。周りの音を聴き合い、お互いの声を認め合う。	・ 既習曲
	5	・ 日本の名曲	・ 歌詞の内容から情景を思い浮かべる。言葉を大切にし、表情豊かに歌う。	・ 花
	6	・ 交響詩の鑑賞	・ 情景の移り変わりがどのように音楽で表現されているかに注目して聴く。	・ ブルタバ（モルダウ）
	7	・ 合唱コンクールに向けて	・ それぞれのパートの役割を考え、歌詞の意味を加味した表現を工夫し歌う。	・ 合唱コンクールの課題曲、自由曲選曲
2	9	・ 合唱コンクールに向けて	・ 周りのパートの音を聴きながら歌い、クラスで1つのものを創り上げる達成感を味わう。	・ 合唱コンクールの課題曲、自由曲（文化祭まで）
	10			
	11	・ 創作	・ 歌詞の抑揚を生かしたりリズムや音をつないで曲を創ることができる。楽譜に対しての知識や教養を深める。	・ 自作曲
	12	・ 器楽	・ アルトリコーダーや箏に親しみ、器楽への理解を深めて演奏に生かす。	・ 既習曲他
3		・ 曲の構成、魅力の鑑賞	・ 曲の特徴やよさを捉え、自分なりに表現する。	・ ボレロ
	1	・ 日本の伝統芸能の鑑賞	・ 伝統音楽の魅力を味わう。	・ 能
	2	・ 卒業に向けて	・ 歌詞の内容を読み取って表現を工夫し、卒業生としてふさわしい態度や歌声を追求する。	・ 卒業式の歌
	3			

教科名	美術	学 年	3	週時間数	1
使用教科書	「美術 2. 3」(光村図書)				
副教材等	「美術資料」(秀学社) 「レタリング字典」(秀学社)				

教科の目標		○対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができる。 ○自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と造形的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。 ○主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養うことができる。		
授業の進め方		○作品制作を通して、見通しをつけながら作業に取り組むようにします。 ○基本的な技術を身につけ、制作に応用できるようにします。 ○作品の制作の他、知識や技能を幅広く身につけられるようにします。 ○感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図、表現のよさ、美しさを感じ取る心を養います。 ○表現方法の異なる作品の鑑賞することにより、いろいろな表現方法に気づき、深めます。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つきたい力	○対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ○意図に応じて自分の表現方法を追求し、造形的に表している。	○自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と造形的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	○美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動の取り組みようとしている。
	方法	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・定期テスト ・ワークシート	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・定期テスト ・ワークシート	・各活動への取り組み方 ・アイデアスケッチやワークシートの内容
学習のポイント	授業	○対象をよく観察し、ものを見る目を養い、考える力をつけよう。 ○様々な表現方法に挑戦し、技能を身に着け自己の表現につなげ、試行錯誤しながら表現の幅を広げよう。	○美術作品や友達の作品のよさや美しさを感じ取ろう。 ○表現の意図や機能性など、美術の働きや社会の中の美術を考えよう。 ○アイデアや感じたことを書き留め制作の基礎をつくろう。	○どの分野にも意欲的に取り組もう。 ○仲間の考えや意見を尊重し、認め合いながら美術への感性を高めていこう。
	家庭	○制作に必要な準備物を考えて用意し、完成までの見通しをもって家庭でも自主的に制作しよう。 ○芸術や美術に興味を持ち、美術館等に足を運び、展覧会などを鑑賞しよう。 ○日頃より様々な分野の表現活動に興味を持ち、作品につなげていこう。		
定期テスト範囲	1 学期中間(5 月下旬頃)			
	1 学期期末(6 月下旬頃)		1 学期で学習した内容	
	2 学期中間(9 月下旬頃)			
	2 学期期末(11 月下旬頃)		2 学期で学習した内容	
	学 年 末(1 月中旬頃)		1 年間で学習した内容	

学期	月	単 元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	《絵・彫刻分野》 ・錯覚作品	・錯覚の効果を理解し、作品にいかすことができる。 ・基本的な構成の仕方を理解し、イメージに合った構成ができる。 ・イメージに合った画面構成ができ、配色にも自分の表現ができる ・基本的な立体形のとらえ方がわかり、形、明暗を工夫し平面に表現することができる。 ・細部まで自分の表現を追及し、試行錯誤しながら制作ができる。 ・作品の質をより高めるために配色計画や着色が丁寧で美しくできる。 ・細部まで自分の表現を追及し、試行錯誤しながら制作ができる。	・アイデアスケッチ ・下書き ・着色 ・仕上げ ・友達の作品の鑑賞
	5			
	6			
	7			
2		・鑑賞	・友達や身近な人の作品を鑑賞することで、作品の良さや美しさを感じるとともに、表現に表された工夫や、さまざまな技法の使い方を発見し、お互いの良さを味わう。	
	9			
	10			
	11			
3	1	《デザイン分野》 ・卒業制作	・季節感を取り入れてきた日本の文化に関心をもち、四季折々の動植物や天候などから主題を生み構成することができる。 ・細部まで自分の表現を追及し、試行錯誤しながら制作ができる。 ・作品の質をより高めるために配色計画や着色が丁寧で美しくできる。 ・細部まで自分の表現を追及し、試行錯誤しながら制作ができる。	・アイデアスケッチ ・下書き ・制作 ・仕上げ ・友達の作品の鑑賞
	2			
	3			